

【養成医に聞く】朝来医療センター

[自己紹介]

氏名 : 小林 和樹
卒後 : 5年目
経歴 : 2020年3月 神戸大学 卒業
: 2020年4月- 公立八鹿病院(初期研修)
: 2022年4月- 公立豊岡病院組合立 朝来医療センター内科(前期派遣)

[朝来市について]

朝来市は兵庫県のほぼ中央部に位置しており、市の84%を森林が占めている自然豊かな街です。中世から近世の遺産も多く、竹田城跡や生野銀山で有名です。神戸市までは自動車でも1時間30分程度であり、交通の便も比較的良いようです。私自身は2年間朝来にて徒歩で生活していますが、不便を感じることはありません。



[朝来医療センターについて]

病床数 149 床で院内の常勤医師は計 8 名(内科 4 名+整形外科 3 名+外科 1 名)です。内科では主に亜急性期-慢性期の患者を担当しており、4 名の内科医がそれぞれ主治医として 10-20 人程度の入院患者を受け持っています。定期外来(週 2)、初診外来(週 2)、救急外来(週 3)、当直(月 3)、待機(月 3)程度です。また、希望によって週に 1 日、外病院での研修日を確保しています。

治療の難しい症例については内科医同士で相談したり、3 週間に 1 回実施頂いている県立丹波医療センター見坂先生との TV カンファレンスでご相談したりしています。他、1 週か 2 週ごとに循環器内科、呼吸器内科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科の外来があるため、専門疾患についてご相談することが出来ます。

当直は医師 1 人と看護師 1 人、検査科は呼び出しの体制であり、MRI、緊急内視鏡、緊急輸血、外科手術などは出来ません。更に他院へ救急搬送する場合には医師の同乗が基本となるため、受け入れ時点で対応可能かどうかを判断する必要があります。その一方、当院で受け入れられなかった場合は三次救急担当である豊岡病院に負担がかかってしまうため、積極的な受け入れも重要です。

[地域医療において考えていること]

医療資源の不足する地域において、特に非医療者でも取り組める「生活習慣改善」の重要性を感じています。例えば「心臓を栄養する血管がつまったとき、その血管に小さな網を入れて広げる」というのは医学の蓄積によって実現した信じられないほど高度な技術であり、そのお陰で本来致命的な病態であっても存命することができるようになってきました。一方で、高血圧や高血糖、喫煙など、数十年かけて傷つけた体は治療後もリスクの高い状態が続き、健康体を医療で取り戻すことはできません。もちろん生活習慣で全ての疾患を予防することは出来ず、抗えない加齢や偶然によって発生する疾患も多数存在します。しかし臨床の場において生活習慣改善の余地は多く残されており、患者さん自身が自分の医療資源となることはとても重要です。私も、患者さんに指導している内容(毎日の食事の栄養価の計算、運動と睡眠の記録、禁酒、禁煙)は実践しながら、一般内科医として健康の模範になりたいと願っています。

また、私は勤務において精神的に破綻しないことを第一目標としており、県養成医の中でも珍しく専門医資格を取得しない方針で進めさせて頂いています。養成医の先輩や大学の同期の訃報を聞かされたとき本当に心苦しく、毎日生きていられることは全く当たり前のことではないと実感します。日々、自身の技術や知識不足を恥じるばかりですが、医師不足地域では「決められた時間、決められた場所に医師免許を持った人間がいる」ということがまずは重要だと感じていますので、今後も継続して勤務できるよう精進します。

最後になりましたが、患者さんだけではなく、地域医療に従事されている先生方の健康が保たれることを心から願っています。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。



キャリア形成卒後支援ユニット
postgrad@med.kobe-u.ac.jp

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1 TEL:078-382-6596 FAX: 078-382-6597 (神戸大学総合内科医局内)